



2023年10月25日 発売予定

# 余命わずかの幸せ

在宅医の正しい寄り添い方

山中光茂 著

## 24時間、夜間も土日も往診する名医

### 「寂しい最期」「苦痛の最期」から「安心する最期」へ

- ◆著者はがんの終末期など重症度の高い患者を1500人以上診察し、年間250人以上のお看取りをしている在宅医。
- ◇がんの苦しみは病気以上に、放射線や抗がん剤の副作用などによる「治療の苦しみ」。不幸な終末期にしないためには。
- ◆抗がん剤から「麻薬」まで—薬とうまくつきあって、終末期を少しでも穏やかに。多くの患者や家族から「ありがとう」と言われる。
- ◇「めんどくさい患者」「納得できない家族」との付き合い方。
- ◆願わくば「枯れてゆくように」—老衰は、人生を生き切った「理想の死」。
- ◇「病院の冷たさ」から、介護体制を含めた在宅医療の満足感へ。
- ◆終末期を充実した時間にする取り組みや、さまざまなサービス、年金でまかなえる経費なども紹介。

「山中先生はキュア(治療)と同時に家族も含めたケアをしている。尊い人生の最期を幸せに全うさせるにはどうしたらよいのかを、現場で溢れる死に囲まれながら考え抜いてこられたに違いない。」

—黛まどか(俳人)



四六判・並製/308ページ  
定価：1800円+税

#### 《目次》

- 第1章 末期がん患者の幸せ
- 第2章 老衰
- 第3章 余命宣告を受け入れる患者
- 第4章 暴言をくり返す独居の患者
- 第5章 一人暮らし、体が動かなくなる
- 第6章 がん末期のラストドライブ
- 付録 在宅診療の原点、ケニアにて—医師じゃなくても人間として

著者：山中光茂(やまなか・みつしげ)

しろひげ在宅診療所院長。1976年、三重県松阪市生まれ。慶應義塾大学法学部、群馬大学医学部卒業。医学部卒業後、ケニアの離島で医師としてエイズ対策プロジェクトの立ち上げに2年間携わる。2007年に当時全国最年少市長として松阪市長に就任し2期務める。四日市と江戸川区で在宅診療に従事したのち、2018年しろひげ在宅診療所を開設。



著者

青灯社 営業(担当・社)

FAX: 03-5368-6943

TEL 03-5368-6550

取次：トーハン、日版、楽天BN、八木書店、JRC、新日本図書

eメール info@seitosh-p.co.jp

(書店印)

山中光茂 編

## 余命わずかの幸せ 在宅医の正しい寄り添い方

冊

ISBN 978-4-86228-127-2 C0047

定価 1800円+税